

# 子連だより

No. 127



第五十一回全国子ども会育成中央会議・研究大会

## 命をばぐくむ自然

### 自然から学ぼう子ども会活動

一般社団法人新潟県子ども会育成連合会

指導研修部長

椋澤 政晴

三十八度の猛暑の中、第五十一回全国子ども会育成中央会議・研究大会が名古屋市内で開催されました。

開催のあいさつの前に、七月六日、七日に西日本を襲った記録的な豪雨災害に遭われた方々にお見舞いの言葉と尊いのちを落とされた方々に対し哀悼の言葉と参加者全員で黙祷をささげ、大会が開けられました。

今回の大会は「命はぐくむ自然、自然から学ぼう子ども会活動」をテーマに、全国から育成者とユースの代表と幅広い人たちが集まりました。

まず、今まで各地域で活躍されてこられた方々、地域で立派に活動している子ども会、それらを支えて活動された育成団体、JL団体やシニアの団体に対し表彰が行われました。新潟県からは前会長 武士侯昭司氏が表彰されました。現在は県子連の顧問として活躍されておられます。今後益々の活躍をご期待申し上げます。

新潟県として、今後は各地で活動しているJL組織や各子ども会の活動に目をやり、各子ども会活動の励みとなるよう目を行き届かせて行く事が大切なことではないでしょうか。地域でしっかりと活動している子ども会や育成者を表彰していくことが、子ども会活動の活性化につながるのではないかと考えています。

今回の開催趣旨に沿った記念講演「自然から学び自ら気づき考える力」を題し、環境省の環境カウンセラー 篠田陽作氏が自らの子ども会活動をもとに、自然と関

わり接することによる子どもたちの原体験が人として育ち、それらの原体験が「気づき」、「疑問を持ち」、「考え学ぶ」その能動的に学ぶことが出来るようになってゆく、それが子ども会活動だと強調されていました。先生は五年間米作り環境教育を指導して親子と米作りを続けて、その経験として子どもたちが農業に興味をもって進路を決めた子たちがいると話されました。一年を通じ田起こしから草取り収穫までのすべてを体験する、それらを親子で体験できることは素晴らしいことだと感じました。それを名古屋で行っていることに感じました。農業県の新潟で行わなければいけないことではないかと思いました。

最初に先生は「大人が子どもを育てる」と話されました。しかし、今の大人は自然体験などの経験が少なく子どもに伝えることが出来なくなってきた。子ども会活動の子もまたちを見ても普段の体験の少なさを感じることも多くあります。先生の大人とは多くのことを含んでのことだと思えます。今後も「大人が子どもを育てる」ということを考えながら活動していきたいと思いました。

一日目の分科会は三つに分かれ、報告それに対する意見交換が行われました。最初に大分県のシニアの九州大会までのシニア、JLの活動が紹介され、しっかりとそれぞれが役割を担って活動している様子が報告されました。十三年度のJL九州大会の為に十二年度に大分県シニアクラブとして発足し、その後も大分県

子連JL部会を担当し、各市子連のJLの指導を行っています。昨年のJL九州大会をJLを補佐し、JLたちの活動を客観的に評価し、アドバイスを発行して、無事九州大会をJLたちの手で成功させることが出来たと報告されました。前回の大会の経験を生かしてつなげていくことは大変なこと、県とシニアの連携に感謝しました。

前回の「JL 関東甲信越静岡新潟大会」を理事になったばかりで手伝いをしました。四年後には新潟県で関口大会を行わなくてはなりません。県子連ではユースとシニアの登録を各子連にお願いしている所です。四年後の大会をJLの力で成功させる次の十年につながる大会にしようではありませんか。新潟県としてつなげてゆきましょう。子ども会の手による子ども会」を目指して。





第五十二回関東甲信越静地区子ども会育成協議会栃木大会

「子ども会を取り巻く問題の方向性はどこを向くのか」

一般社団法人新潟県子ども会育成連合会 副会長 風間浩一

「再発見！飛躍につなげよう」を合言葉に、一般社団法人栃木県子ども会連合会（以下、栃木県子連）が那須町において九月三十日から二日間開催され、新潟県子連からは二十四名の運営関係者で、子ども会の未来について意見を交換してきました。

【大会開式】

大会の歓迎レセプションとしては、無形文化財、城鉞舞を披露していただきました。舞は地元小学生の女の子たちが鉞打ちと呼ばれる調子取りを担当して、伝統芸能に子どもたちが重要なポジションを担っているところを見せていただきました。

司会に促され、関浦 口栃木県大会副会長の開式宣言があり、栃木県子連会長と全子連会長が主催者を代表して挨拶いたしました。続いて子ども会功労者四名の表彰を行い、



栃木県副知事をはじめ三名の来賓よりお祝辞を頂きましたが、日程が福井国体と重なったことで、主だった来賓の方々が代理の方となり少々残念に思いました。

壇上の来賓を紹介していただき、降壇後に閉式宣言がされました。

【基調提言】

今後の日程と分科会の開設目的の説明がされ、基調提言の朗読劇「子ども会活動、あるある！」を栃木県子連役員によって演じていただきました。



たたきました。

【分科会】

本年度の分科会は、基調提言に基づく共通テーマ「育成会活動の楽しみ方」を年齢別の第1から第6分科会で、「ユースリーダーとしての子ども会活動」を検討する第7分科会、第8分科会は「これからの安全啓発活動」を討議

いたしました。

各分科会は僅か三時間の討議時間でしたが、栃木県子連が五十余回の実行委員会を開き準備をした成果で、各分科会のコーディネーターとタイムキーパーの適切な進行により、ほぼ満足の行く検討結果が出そろったようでした。

【分科会報告・全体討議】

一二目は分科会で討議した討議経

過と内容を各分科会のコーディネーターから発表していただきました。大会アドバイザーからも意見を頂きました。

また全体討議では質問・提言をコーディネーターから回答いただきました。発表や提言はこの県でも同じ問題を抱えていることを確認することができました。

【閉会式】

式は大会副会長の宣言によって開式され、主催者のあいさつへと続きました。

次年度開催県である静岡県子連へ開催旗の引継ぎが行われ、開催に掛ける意気込みを静岡県子連会長よりいただきました。

最後に なりまして、本大会で他県の関係者との交流を通し、二年後に本県で行う大会の情報収集の機会を与えていただいた栃木県子連各位に感謝申し上げます。本大会の報告といたします。





# 「学校、家庭、地域の連携を」

下越教育事務所社会教育課 課長 名古善晃

## 一 はじめに

私は、信州の生まれです。生まれて初めて見た海は、鯨波でした。それまでは、野尻湖しか見たことがなかった私は、その大きさに驚愕したことを覚えています。それは、小学校三年生の夏休みで、地域の子ども会で準備したマイクロバスで出かけました。私たちは、満面の笑みで、黒いトラックのタイヤチェーンを抱えていました。

子ども会は、昔も今も、学校では得られない貴重な経験と楽しい思い出を、子どもたちに与え続けていることと思います。

## 二 県子連に敬意

「子どもは地域で育つ」を基本理念に、地域社会を基盤として、子どもたちの健全な成長、子育て世代の親の支援、よりよい地域社会の実現のために四十年以上にわたる活動に対し心から敬意を表します。

「新潟県子連だより」やホームページを見させていたくださると「子

ども遊びのひろば」や地区別事業の開催。シニア・リーダー研修会等の開催など、子どもたちがワクワクする活動の企画・運営や指導者養成に計画的に取り組まれていることは、誠に素晴らしいことでもあります。また、各加盟団体においても、地域の特色を生かした地域密着型の体験活動、地域貢献活動をなされておられることに頭の下がる思いです。

## 三 学校、家庭、地域の連携

現在、地域における教育力の低下、家庭の孤立化、学校を取り巻く問題の複雑化に対して、社会総掛かりで対応することが求められています。子どもたちの健全育成には、地域と学校がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的なネットワークの構築が必要不可欠です。

その中核的な存在として、県子連の活動に大きな期待をしております。子どもたちは、様々な体験をとおして、地域の自然や文化、産業や伝統について学び、郷土愛を深めることでしょう。また、保護者や地域

の方々との温かい交流をとおして、豊かな人間性や社会性を育むことと思います。

県子連が組織を拡大され、多くの保護者や地域住民を巻き込んでいくことは、子育て世代の親の支援にも繋がることと思います。それは、指導者の養成にも役立ち、循環型生涯学習社会の構築にも結びつくと考えます。

今後は更に、公民館等の社会教育行政はもとより、各種青少年育成団体や文化スポーツ団体、学校PTA指導者等との連携を深められ、強固なネットワークをつくっていただくことを期待します。

県子連関係の皆様が、地域コ－ディネーターになられコミュニティ・スクールの運営に携わったり、「放課後子供教室」や学校支援ボランティアとして学校に協力したりと、様々な場面で活躍なされ、地域の各種団体と協働・連携しながら子どもたちの教育環境を整えることが期待されます。そのことは、子育て世代の親の教育力の向上や地域の活

性化、地域住民の自己有用感の向上にも貢献することと期待しております。

## 四 結び

子どもたちのソーシャルキャピタル（家庭、地域、学校や教師との繋がりが）が高いと、子どもの学力形成に積極的な影響を与え、不登校率や高等学校の中途退学率、校内暴力発生率が低いという結果がある調査で報告されています。この結果からも、子どもたちが地域と関わりをもつことは、子どもたちの成長にとつて意義深いことと言えます。

一方、大人にとつては、地域の役員経験数が多く、子育て関係団体への参加が生活満足度を高めるという結果が出ているそうです。すなわち、子どもの活動に関わっている人ほど、生活満足度が高いということ

です。私も縁あって、今の職場に勤務させていただいております。力不足ではございますが、下越教育事務所社会教育課で、循環型生涯学習社会の実現に向けて、精一杯努力したいと考えております。今後とも、県及び教育事務所の事業にご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

子どもたちと地域の明るい未来、つくりといった夢のある取組のために、共に頑張ってまいります。



上越地区

最後のドッチボール大会

頸城区大坂地区子ども会

六年 立石 帆那

私は、今年が最後のドッチボール大会でした。出場チームは、みんな優勝をねらっていました。今回の大会で学んだことは、三つあります。

一つ目は、練習は大切だということです。私たちは、「優勝しようね。」と言いながら練習しました。



かんとかやお父さん方の教えをなるべく実践しました。

二つ目は、リラックスすることです。最初の相手は去年の優勝チームで、すごく緊張しすぎて前半は力かちだったけど後半からは緊張がほぐれてきて自分たちのペースで試合ができました。

三つ目は、六年生で話し合いができたことです。優勝を意識して去年の反省をして改ぜん策を考えました。

ドッチボール大会は三勝一敗でした。でもその一敗は、ドッチボールは引き分けて、ジャンケンで負けてしまいました。結果は、なんと一人差で優勝でした。三年間出場して初めて優勝することができました。今回優勝できたのは、みんな協力したこと、周りの人の沢山の応援のおかげだと思います。

大会の打ち上げもずっと笑顔の絶えない時間を過ごすことが出来ました。

一生けん命練習して優勝できたことは、すごくうれしいことでした。来年も大坂地区子ども会に優勝してもらいたいです。

中越地区

楽しかつたぎおん祭り

柏崎市宮場町子ども会

六年 ハナグラシア

柏崎市では、毎年、ぎおん祭りが行われています。七月二十四日は民よう流し、二十五日はたる仁和賀、二十六日は大花火大会があります。今回は民よう流しとたる仁和賀を紹介します。

私は、宮場子ども会のみならず民よう流しとたる仁和賀をしました。民よう流しでは、「三階節」「柏崎しん句」「柏崎おけさ」の三曲を順に町の中心を回っておどりしました。「柏崎しん句」が特にむずかしかったです。かけ声があるので大きな声で言うとう気持ちよかったです。

たる仁和賀では各町内がいろいろなおみこしを出しました。ドラえもんなどのキャラクターものもありました。私は町内の子どものこしをかきました。おみこしが重くてかつくの苦勞したけど、楽しかったです。ぎおん祭りは、大人も子どもも楽しめるし、かれあうことのできる



祭りなので、残っていたらいいと思います。

楽しかつた運動会

柏崎市新赤坂子ども会

六年 山口 晁生

九月三十日に、地区の運動会に子ども会のみならず参加しました。ぼくは、おもてなしリレーや玉入れ、紅白対抗リレーなどたくさん出場しました。中でも一番楽しかった種目は、一升満杯リレーです。小さな入れ物いっぱい、色水を入れて運ぶので、手やゆかがビショビショになります。つるつるすべるゆかを大人も子どもも必死になって、色水を運びました。ぼくたち赤組が先にピンをいっばいにして勝ちました。

とてもうれしかったです。

来年は中学生なので、一般の部での出場になるけれど同級生のみなど出たいと思います。



下越地区

柴橋子ども会の絆

胎内市柴橋子ども会

六年 本宮 空

柴橋子ども会では、三月に歓送迎会がありました。入学前の新一年生とこれから卒業する六年生を迎えて、手つなぎ鬼としっぽとりゲームをしました。みんな、なかなかつかまらず、鬼をした六年生はとても大変そうでした。最後にビンゴ大会もして、すてきな賞品が当たりみんな楽しそうでした。

僕も新一年生の時は、小学生のお兄さんお姉さんは楽しい人たちで小学校は楽しいところだと思っていたことを思い出しました。卒業した六年生には、学校生活や登校班でリーダーとしてお手本になることを学んだので、今の僕もお手本になれるようにがんばっていきます。

これからも子ども会の行事で、みんなで協力し沢山お話をして、子ども会の団結を深めていきたいと思っています。



佐渡地区

楽しかったプール遊び

佐渡市羽茂 若葉・若竹子ども会

六年 中原 すぴか

若葉・若竹子ども会が七月にありました。

私たちは、ペットボトルでうきを作り、プールに浮かべみんなと競走しました。

初めに、ペットボトルを形ごとに分別しました。いくつもの種類があるペットボトルは、それぞれの形がちがっていて、とても大変でした。

次にペットボトルを四つつなげていき、それを組み合わせて大きいうきを作りました。私と、同級生二人で作ったうきは、二人がよこになれるくらいの大きさのうきです。けっこう大きいので、



ペットボトルをつなげるのが大変でした。

お昼はお弁当を食べ、午後からプールに行きました。二十五メートルプールに、ペットボトルのうきが四台。所せま

しとならびました。そして乗ってみると思っていたよりも大丈夫だったので、ごかったです。

みんなと競走したら、思ったよりも進まなくて大変でした。しかもどんどん

んくずれていって、最後にはばらばらになってしまいました。けれど、とても楽しかったです。最後には、みんなでプールで遊びました。学年男女関係なく子ども会のみんで遊び、低学年の人とも仲良くなれて、とても楽しい子ども会でした。

平成三十年度

### 第二回中学生・高校生

## ジュニア・リーダー中級研修会

・期日 平成三十年六月三十日(金)～七月一日(日)  
・会場 国立妙高青少年自然の家

### たくさん学んだ中級研修会

柏崎市 中一 荒川 響

私は、中級研修会に初めて参加しました。この中級研修会で、特に印象に残っていることは二つあります。

一つ目は、キャンプファイヤーです。キャンプファイヤーで、スタンツをしました。スタンツは、みんなで考えて「さんぼ」のかえ歌と、「ピヨピヨちゃんをしました。説明が難しかったです。今回は、大人の人たちに説明したから分かってくれましたが、子どもにするのは少しわかりにくい説明になってしまったので、次からは、わかりやすく説明できるように頭で整理し説明したいと思います。

二つ目は、パステルアートです。パステルアートをする前に、ポスターを書きました。そのポスターにパステルアートをしました。私たちはオレンジ色でポスター一面をぬり、星を書きました。とても明るくなりましたが、オレンジ色だけでなくなくなってしまう。その短所を長所にするためには、もっといろいろな色を使ってカラフルにすれば、



明るくなり、一色だけなくなることはありません。

今回の中級研修会を、これからのジュニアリーダー活動に生かします。

### 中級研修会に参加して

柏崎市 中二 永井 楓奈

私は今回、初めて中級研修会に参加しました。

参加して、声を出すことが大事だと思いました。私は実は人見知りで始めはなかなか声を出せずいつもおどおどしてしまいます。声を出すことが苦手で、もやっぱり声を出していかないと何でもできないと思いました。だんだん時間がたち、仲も深まり話し合いが進んだときには初対面の人もいたのに二日間で変わることでできてうれしかったです。

その他に印象に残っていることはジュニアリーダーや講師の方々みんなでキャンプファイヤーをしたことです。みんなで意見を出し合いながら決めたスタンツは見るのも自分たちで見せ物をする

のも楽しくて一緒に過ごしていた時間があっという間に過ぎていました。

中級研修会とこの中で真面目なものかと思っていたけれど、新しい友だちもできたし、少しだけれど苦手もこくふくできたしとてもいい機会になりました。

### 中級研修会に参加して

柏崎市 中一 岩下 琴都

私は、今回初めて中級研修会に参加して最初はすごく不安だらけでした。

私は今回の研修会で学んだことは「自分の一つ一つの行動に責任をもって正しい行動、判断をする」「楽しさを伝えられる人」ということを学びました。最初は、失敗をおかしたり、分からないところもあつたけど仲間と相談や協力したりして徐々にできるよつにしていき、学ぶことができました。私はこれ、で、「仲間の大切さ」も改めて感じることができました。私は今回の研修会を通して「J」の一言として「たれかのやくに立てる行動」「みんなを楽しくする。」「このことをこれからがんばっていこう」と思いました。あと何より大切なのは「仲間とともに学ぶ」「仲間を思つ心」を持つことなのかなあと思えました。私は今回の失敗、学んだことを生かしてこれから



のJし活動がんばっていききたいと思います。

### 中級研修会に参加して

柏崎市 中一 金田 妃暖

私は今回、初めて研修会に参加しました。ジュニアリーダーの養成研修を終え、ジュニアリーダーとなった初めての研修会だったので、私は自分の目標をたてて研修会に臨みました。それは、ジュニアリーダーとしての課題を見つかることです。

今回の活動で、ジュニアリーダーの役割について考えました。その中で二つの役割をあげました。一つは、すぐに正しい判断ができ、お手本となるような行動を先頭に立てることができる人。二つ目は、小学生に楽しさを伝えられることができる人でした。私は今回の活動で自分の課題をしっかりと見つけることができました。それは、すぐに正確な判断をとるということです。私はとても迷う性格です。緊急時などでリーダーが迷っているのはみんなが困ります。なので判断力をつけられるようがんばります。



小学生を楽しませられることはリーダーにとってやりがいになります。やりがいを感ぜられるよう信らいされるリーダーを目指してこれからの活動もがんばります。



### 中級研修会に参加して

長岡市 中一 平野 凜花

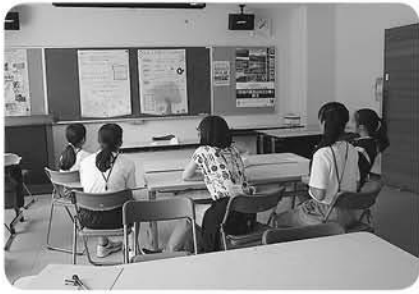
私は中級研修会に今回初めて参加しました。私を含めて五人参加していましたが、長岡からの参加は私だけで、初めは話し合いなども進まないような状況が、初めて会う人となじめないことにとても緊張していました。

今回の研修で行動力や積極性が大事だということを感じました。

ほかの参加者たちと初対面だからこそ、きちんとコミュニケーションをとってあげれば、午前中の内容であった講義のときにも、活発に話し合うことができ、より学ぶことができたと感じます。

また、午後のキャンプファイヤーをしたときに、その前の時間にみんなまで考えたスタンツをしました。ですが、いざ本番となったときに、はずかしくなってしまうことがありました。

「やっていく例がはしがついていないと見ている方は、もっとはずかしい」と言われたことがあります。本当にそのとおりに思いました。



研修で、いろいろなことに気がつくことができ、たくさん反省点がでてきました。それは今後の活動などでおしていきます。

### 関プロに参加して

柏崎市 中一 荒川 響

私は、今回初めて関プロに参加しました。楽しいことだけでなく、いろいろなことを学ぶことができました。特に印象に残った二つのことを紹介します。

一つ目は、ウエルカムパーティーです。一日目に初めて会った人ばかりで、とても緊張しましたが、話しかけてくれる人がいて、とてもたくさんの人と話をすることができました。とても仲良くなることができました。この短い時間で、みんなとの距離が縮まったように感じました。

二つ目は、キャンプファイヤーです。「もえろよ、もえろ」をみんなが歌ったことで、一体感が生まれたような気がしました。レクでは、私たちの班はインディアをしました。内容を決める時に

「頭を使うより、体を動かすものがない」ということでインディアに決めたのですが、結果的には、全員がとても楽しむことができました。班のみんなと考えてきめて実行することは、とても大切なことだと思います。今回感じたことや学んだことを、これからの学習に生かしていきます。

### 関プロに参加して

妙高市 高一 鈴木 佑奈

私は去年に引き続き二度目の関プロに参加しました。

今回の関プロは主に、四年後の新潟関プロ運営に向けての参加で、去年とは違った心持ちで茨城へ行きました。そのため、他県のリーダーと交流を深めるだけでなく、茨城の運営がどう動いているのか、統率するためにどんな工夫をしているのかを見て、とても勉強になりました。

その中でも右手の法則という、前に立っているリーダーが右手を挙げたら皆右手を挙げてリーダーを見るといいものが、とてもシンプルだけど、参加者に話をきいてもらうためにはとても良い方法だと思いました。人数が少ない中で、どうすれば上手くまわしていけるのか工夫されていて、私たちも運営をする時はきつと人数が少ないので、茨城から学んだことを生かしていこうと思いました。

今回の関プロはジュニアリーダーとして最後の関プロでしたが、たくさんの方たちとたくさん思い出で、本当に参加

して良かったと思います。学んだことをユースリーダーになって生かしていこうと思います。

### 高校生最後の関プロに参加して

妙高市 高三 草間 栄美

私は、一回目の関プロに参加しました。昨年参加した経験もあり積極的に活動することができました。

昨年と活動内容を比べると楽しむのはもちろんなのですが、覚えることがメインだったような気がします。特に充実したのが、室内キャンプファイヤーで盛り上がった後のフリータイムです。前回は自分の班の人だけと仲良くしていたのですが、今回は班はもうろっく他の班の人たちと交流して自分たちの知ってる多くのレクやいたコチを教え合うことができました。教えてもらった中の一人にゲームの内容を全部ノートにして持っている方がいて、私は感動しました。これから私たちの地域のジュニアリーダーは枯渇していて、私たちがはしっかりと引き継ぐことができないので、何か残せるように、分かりやすくまとめてあげられたらいいなと思いました。

これから私は中々出てこれる機会が少なくなるのですが、二年後の新潟で交流会が行われる際には、今まで学んできたことを生かし、新潟は良いなと思われようかな構成を立てられるようにお手伝いできたらと思います。

### 学んだこと、 感じたこと

柏崎市 中三 前澤 啓人

僕は、今回初めて関フロに参加した。この研修では色々な事を学べた。

会場に到着して、他の県のリーダーがとてもメリハリがあり気持ちの切りかえがうまくいことに、驚き感心した。あいつの時や、レクリエーションで盛り上がる時とても元気がよかった。しかし、話を聞く時は真つすく話している人を見て、とても凜としていて学ぶべき事と思った。

この研修では多くの楽しい活動があった。僕は、そこでも楽しんだ。しかし、研修の前にしおりを読んでいたがため、活動の時に何をすればいいのか分からない場面があった。活動する前には概要を把握することや準備が必要だと思った。

これからの体験を通して、僕は他の県の人達のようにメリハリをもっとつけていき、明るい雰囲気や真剣な態度をつくれる意識を持ったJしになりたかった。今の小中学生のJしにはこのよつなJしになってもらいたい。色々な事を学ばせて頂いた他の県



妙高の人たちには本当に感謝している。Jしとして新たな一歩を踏み出した僕は、少しずつでも希望のJしへ歩み続けたい。

### 関フロに参加して

柏崎市 中一 岩下 琴都

私は、今回初めて関フロに参加しました。前日まで、友だちができる仲間とうまくやっていけるか不安だらけでした。

そして迎えた当日、茨城の会場に入った時、私と同じ班の中高生の人たちが優しくいろいろ教えてくれて最初にあった不安は、少しずつすらいでいきました。自己しようかいゲームなどを通して初日に同じ班の人と仲良くなれ、あとの二日間がとても楽しかったです。

二日目は、『リザ作り』『室内キャンプファイヤー』などで、仲間と相談したりして面白いレクや『いたごち』ができたので二日目も良い勉強になりました。

この三日間で私は、自分のところのリーダー活動にはないレクリエーションなど他の県の人から学ぶことができ、他の県のみ力を知ること、自分の県のみ力を他の人に伝えることができ良かったと思います。この関フロで新たな発見、大切なことをいろいろ私は学べたのでこのことを通してこれからのJし活動にいかしていきたいと思っています。

### 関フロに参加して

柏崎市 中二 長谷川まどか

私は、今回初めて関フロに参加しました。他県のJしとの交流もはじめてだったので最初はとても不安でした。しかし、他県のJしと話したり活動して



く中で不安は消え、有意義な時間を過ごすことができました。

特に印象に残っている活動は二つあります。一つ目は班での自己紹介です。ただ名前と

出身県を言うだけでなく、班によって様々なアレシを足していきまし。そうする事で雰囲気が出るくなり、話しやすくなっていました。これはJし活動だけでなく、様々な場所ですると思えます。

二つ目は様々な活動の間や、キャンプファイヤーの時にいったレクです。一つのレクでもかけ声ややり方を少し変える事でバリエーションが増やせる事が分かりました。

その他にもたくさんさんの活動をする事



で、リーダーとして大切な事を学べました。私が目指すリーダー像はまだあまりまとまっていません。ですが、Jしとしての活動やこの三日間での経験はきつと今を生き抜く力になると思います。三日間に学んだたくさんさんの事をこれからの生活に活かしていきたいです。

### 関フロに参加して

柏崎市 高一 吉田 麦

今回、関東ブロック大会に初めて参加させていたとき、他県の人と関わっているようなことを学びました。

関フロでは、レクリエーションを教え合ったりやってみたりしました。同じ名前でも他の県で内容が違ったり、知らなかったものなどがたくさんありました。その中で驚いたレクは、食事の時の『いたごち』というレクです。『いただきます』と『ごちそうさま』のときに、班のみんなが歌ってから食べるので、すぐ班のみんなと話せるよつになりました。自分は初めて知ったので、自分の地域で使ってみようと思いました。

今回の関フロ大会で、他県のリーダーさんと関わり、自分よりもコミュニケーション力がある人や人をまとめる力のある人などを見て、自分ももっと頑張ろうと思いました。そして、今回学んだことを活かして、今後のリーダー活動に取り入れて頑張りたいです。





平成三十年度  
子ども会  
安全啓発初級指導者養成講習会  
柏崎市子ども会連合会 副会長 三井田 孝

平成三十年度子ども会安全啓発初級指導者養成講習会が、柏崎市市民プラザにおいて、七月八日、日曜日九時三十分から十六時にかけて十五名の受講者が参加して開催されました。

県子連須田会長より挨拶を頂いた後、杉浦全子連事務統括部長を講師に迎え講習会が始まりました。

講習は五人一組の三組で、グループ演習を交え、杉浦講師の巧みな話術に緊張もほぐれ、楽しく受講することができました。

今回の講習では、柏崎市の単位子供の会員さんから五名の方が初めて参加して頂き、少しでも裾野を広げることが出来たので、開催地として、一安心したところです。

◆講習内容◆

一、初級指導者養成講習会の説明

① 講習の目的

子ども会活動に携わる指導者・育成者が安全普及啓もう活動を理解し、子ども会活動が安全・安心に運営できるよう。

② 講習を受講するにあたって

③ テキストについて

④ 講習会について

⑤ 講習終了後

KYTに特化せずに安全啓発活動の一環として、安全・安心全体を理解する

⑥ 初級指導者とは

青少年の育成活動の充実信仰を図ること

二、安全啓発指導者講習が目指すもの(安全教育の意義とその方法)

① 安全教育の考え方

- ・ 安全の意義
- ・ 潜在危険の予測
- ・ 冒険への挑戦
- ・ 安全能力の構成
- ・ 安全能力の発達

② 事故の要因と安全教育

- ・ 活動そのものに原因がある場合
- ・ 参加者に原因がある場合
- ・ 環境・服装に原因がある場合

③ リスクとハザードについて

- ・ リスクとハザードについて

④ 用語の定義

- ・ 危険性又は有害性(ハザード)
- ・ リスク

② 「危険性又は有害性(ハザード)」と「リスク」の違い

四、子どもの遊びに関する危険性と事故

① 子どもの遊び

- ・ 子どもと遊びの重要性
- ・ 子どもと遊びの特徴
- ・ 子どもと遊びと道具

② リスクとハザード

五、産業界の安全対策について

③ 遊具に関する事故

- ・ ハイリハットの法則
- ・ バードの法則

と民事裁判

七、子ども会KYT4ステップグループ演習

八、子ども会KYT4ステップ子ども指導演習

九、スポーツ行事のケガ防止

- ① 全子連共済事故発生状況
- ② ケガの種類と発生要因
- ③ ケガ発生の年齢構成
- ④ ケガの防止対策



2018/07/08



2018/07/08



2018/07/08

- ② ヒューマンエラー
- ③ ゼロ災運動

④ 指差呼称

六、子ども会裁判について

- ① 子ども会KYTが生まれた背景
- ② 津市四ツ葉子ども会事故
- ③ 刑事裁判

## 地区別総会のようす

### <下越地区>

- ・期 日：平成30年4月22日(日)
- ・会 場：新発田市生涯学習センター
- ・参加者：5名
- ・議 題
  - (1) 平成29年度 事業報告
  - (2) 平成29年度 決算報告
  - (3) 平成30年度 事業計画
  - (4) 平成30年度 予算
  - (5) 平成30年度 下越地区子ども交歓大会について  
(阿賀野市で開催する)



### <上越地区>

- ・期 日：平成30年5月26日(土)
- ・会 場：わくわくランドあらい(妙高市)
- ・参加者：6名
- ・議 題
  - (1) 平成29年度 事業報告及び決算報告
  - (2) 平成30年度 事業計画及び予算
  - (3) 上越地区子ども交歓大会について  
(10月27日～28日 国立妙高青少年自然の家)
  - (4) その他
- ・感 想
 

議題についてはすべて承認されました。

地域の活動や問題点について、和やかな雰囲気の中で本音で話し合いができました。

### <佐渡地区>

- ・期 日：平成30年5月21日(日)
- ・会 場：畑野農村環境改善センター
- ・参加者：17名
- ・議 題
  - (1) 平成30年度 役員選出
  - (2) 平成30年度 事業計画
  - (3) 平成30年度 予算案
  - (4) 平成30年度 共催事業について  
(私の主張佐渡地区大会)
  - (5) 県子連だよりの執筆について
  - (6) 安全共済会について
  - (7) 第7回おおなわとび大会について  
(子ども交歓大会)  
(12月1日 サンテラ佐渡スーパーアリーナ)

### <中越地区>

- ・期 日：平成30年5月12日(日)
- ・会 場：三条市青少年育成センター
- ・参加者：11名
- ・議 題
  - (1) 平成29年度 活動経過報告及び事業報告
  - (2) 平成29年度 収支決算報告及び監査報告
  - (3) 役員選出
  - (4) 平成30年度 事業計画案
  - (5) 平成30年度 予算案
  - (6) 中越地区子ども交歓大会について  
(10月28日 十日町中央公民館「段十ろう」)
  - (7) その他
    - ・加入促進事業
    - ・安全共済会活動事業



新発田市子ども会連合会 会長 桐生 正 栄

# 子どもの遊びのひろば in 新発田

平成三十年度第二回子ども遊びのひろばは、下越地区の新発田市生涯学習センターを会場に七月二十二日に開催されました。今年も梅雨明けも早く連日の猛暑の中、多くの子どもや保護者の皆様に参加していただき、大盛況で終了することが出来ました。子どもたちの「つながり」と「憩いの場所」を提供する目的で、中越地震の記念事業として発足し、早いもので三十二回を数えることになりました。県内各市町村の子ども会より七団体が参加し、それぞれ特色のある遊びのブースを開催していました。



妙高市子ども会からは「しおりづくり」、子どもたちの真剣な顔と出来上がった時の子ども

平成三十年度第二回子ども遊びのひろばは、下越地区の新発田市生涯学習センターを会場に七月二十二日に開催されました。今年も梅雨明けも早く連日の猛暑の中、多くの子どもや保護者の皆様に参加していただき、大盛況で終了することが出来ました。

もの笑顔が印象的でした。柏崎市子ども会の「スライムづくり」ブースでは、いろいろな分量の教材をコップに入れて、すばやく混ぜ合わせ不思議な色のスライムを作っていました。三条市子ども会では「紙トンボ・折り紙づくり」、思い通りに色付けして楽しそうに自分で作った紙トンボを会場で飛ばして喜んでいました。加茂市子ども会からは子どもから大人まで大人気の「バルーンアート」の



ブースでは細長い風船や丸い風船、ハート型の風船を使って、動物や色々なものを作って楽しんでいました。長岡市子ども会のブースでは「きりぎりしチャポン玉」づくりを、講師の指導

で、子ども達と保護者が一緒にになって取り組んで出来上がったそれを回して本当のシャボン玉みたいの声が上がっていました。新潟市子ども会の「作って遊ぼう」の



ブースでは紙で丸いフリスビーを作ったり色を付けたり絵柄を付けたりして講師の指導により会場で飛ばして喜びあっていました。猛暑の中、屋外テントでは、子どもや大人を夢中にさせる新発田市子ども会の「ぼくもわたしも犬のゲンさん」、本格的な棚や踏み台、座卓などを親子で作っている汗だくの姿は、熱中症の心配をするくらいでした。

ホワイエの通路では、県子連恒例の「積み木の山」赤いカー

ペットの上には一万个の積み木で溢れ、子どもや保護者が思い思いの積み木遊びを楽しんでいました。どのブースも多くの子ども達と保護者で大盛況、親子のふれあいがあちこちで見れた一日でした。おわりに、子どもの遊びのひろばが新発田市に開催されるにあたり、会場設営から諸準備等にご協力いただいた市職員並びに市子連理事役員、県子連理事役員及び参加団体のスタッフの皆様にご感謝申し上げます。





平成二十九年全子連表彰 喜びの声

全子連表彰を受賞して

(社)新潟県子ども会育成連合会顧問・三条市子ども会連合会会長

武士俣 昭司

平成三十年七月十四日十五日名古屋市名古屋コートホテルにおいて、第五十一回全国子ども会育成中央会議・研究大会が開催され、同時にその開会式会場で表彰式が行われました。新会長の河本功会長より一人一人に表彰状、感謝状が授与されました。

子ども会に関わって三十年、走馬灯のように思い出が脳裏を駆け巡りました。昭和六十三年三条市教育委員会の委嘱により、三条市子連設立準備委員となり、長岡市子連の指導、支援を頂き、翌平成元年三条市子ども会連合会の発足。同時に事務局局長を拝任し十年、その後会長となり、県子連に関わるようになってまいりました。

県子連の会長就任は、平成十六年五月第二十九回県子連総会で、理事の互選によって選出され、総会で承認されました。前会長が、任期途中で病に倒れ、亡くなられ病床から「県子連を頼む」と言葉が脳裏に残っています。その時まさか自分が後継会長になると思っても居なかったもので、実際に会長になり責任の重さを痛感したのを今でも忘れられません。県子連会長を十年務めさせていただきました。その間県子連の理事、役員、会員に支えられてこの大役を無事務めることができました。心より理事、役員、会員の皆さんに感謝御礼申し上げます。

最後に県子連の益々の発展を祈念申し上げます。御礼の言葉こそさせて頂きます。ありがとうございました。

子ども会活動を振り返って

十日町市子ども会連絡協議会

中里地区幹事 斉藤 勝久

この度、全子連表彰を頂きましてありがとうございます。これも多くの皆様方の協力とご指導のおかげと感謝申し上げます。自分なりにお断りしたく考えましたが、仲間から後に続く人達のはげみになるからと言われ、お受けさせていただきました。思えば昭和六十年頃から、公民館の友人に行事の度に手伝って欲しいと声をかけられ、子ども連との活動が始まりました。平成になり連絡協議会の役員改選時に事務局幹事に誘われ、今日に至った次第です。平成十年頃には、単子の役員、保護者の方々や研修会(キャンプ、ウォークラリー、グループワーク、グループ活動)等で活気ある子ども会活動でした。その後、少子化や社会変化の波の中で、子ども会活動に協力、参加する子ども連、保護者が少なくなりむずかしくなっています。

少子化で兄弟、姉妹が少なく、地区の子どもも少ない今、家庭や単子で出来ない、体験、経験を考えていかなければならない時と考えています。忙しい、めんどうくさい、他に楽しいことがある等と、子ども会に感心をもたない人達に、感心をもってもらえる活動を目ざしていかなければならないと思う日々であります。大きな課題でありまして。この度の表彰を基として活動していきたいと思えます。又、活動していくには、家族、地域の方々のご理解と

北海道胆振東部地震 被害緊急寄附金
募金活動より 18,120円
県子連より 50,000円
合計68,120円を災害義援金として送金しました。(H30.11.6)

平成30年度 全子連表彰 おめでとうございます
(1) 期日 平成31年2月23日(土)
(2) 会場 石川県立音楽堂(金沢市)
(3) 受賞者・団体
○団体の部(子ども会等)
柏崎市 比角地区子ども育成会
○個人の部(指導者・育成者)
佐渡市 伊藤 博(表彰状)
新発田市 加藤 清夫(表彰状)

ご協力、ご指導があつてこそその活動だと思えますし、大きな力となります。よろしくお願い致します。
終わりに全子連はじめ、県、市、単子連の益々の発展と楽しく、有意義な活動を御祈念申し上げます。

一般社団法人 新潟県子ども会育成連合会 E-Mail n-kodomo@sage.ocn.ne.jp

編集発行 一般社団法人 新潟県子ども会育成連合会
〒九五一一八一一三
新潟市中央区白山浦一―三〇〇
電話 〇五―三三〇一五九八
FAX 〇五―三三〇一五九二

あとかき
○今年は、平成三十二年度関プロ新潟大会の実行委員会が二回開催されました。またまた、前途は不透明ですが、一歩づつ大会に向けた準備が進んでいるように思われます。
○最後に、県子連だよりの原稿をお寄せいただきました皆様に、心より御礼申し上げます。(文責:板垣)

◆今後の予定◆
〔平成三十年〕
・県子連第二回理事会 (長岡市中央公民館:さいわいプラザ)
十一月一日(日)
〔平成三十一年〕
・関プロ会長・事務担当者会議 (オリンピックセンター)
一月十八日(金)~十九日(土)
・関プロ安全啓発中級指導者講習会 (オリンピックセンター)
一月十九日(土)~二十日(日)
・全国子ども会中央会議・研修大会 (石川県立音楽堂・金沢市)
一月二十二日(土)~二十五日(月)
・県子連第三回理事会 (ゆいぽーと:新潟市)
三月二日(日)
・県子連だより第二二八号発行
三月八日(金)
・県子連第三回JL中級研修会 (長岡市千手コミュニティセンター)
三月十六日(土)